令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２４-002

プロジェクト名　粘土で遊ぼう！焼き物体験プロジェクト

プロジェクトの概要

近年、焼き物は大量生産によって安価に手に入るため、愛着の低下が考えられる。このプロジェクトは、子供たちや地域住民に対して、楽しく焼き物の文化に触れる機会を作ることで、焼き物に対する興味や関心を高め、ものづくりを通してＳＤＧｓについて関心を持ち、ものを大切にする心を育むこと、また、地域の公共施設で日本大学学生が地域交流を目的としたプロジェクトを行い、地域とより緊密なコミュニティを築くことを目標としている。（203）

プロジェクトの結果・成果

８月 25 日に生涯学習施設「プラッツ習志野」にて、小学生を対象に豆皿への色付けと手練りでのコップ作成を行った。３部構成で行い、合計約 60 人前後で行った。実行するにあたり、４月から生産工学部の未来工房にてプロジェクトメンバーが焼き物を何度も作成を行い、作成方法やコツを学び、小学生でも行うことができるように工夫を考えた。また、プラッツ習志野との会議を重ね、当日の段取りやレイアウト、作成したポスターの配布依頼などを行った。

ほとんどの子供たちが焼き物体験は初めてのようで、悪戦苦闘する子供達もいたが、学生がサポートに入りながら作成を行った。コップは、あらかじめ作った型を用いて、親子一緒に作成してもらった。粘土は乾きやすく壊れやすいため、子供たちは大変そうだったが、両親や学生のサポートにより、無事全員に作成を行うことができた。この体験を通じて、ものづくりの難しさと楽しさを体感することができたのではないかと思う。また、作成した焼き物は、後日未来工房にて焼き作業を行い、大学の興味を持ってもらうことを目標に、桜泉祭にて受け渡しを行った。

終了後に行ったアンケート結果には、子供たちからは「また作ってみたい」、「楽しかった」、保護者の方たちからも、「今後も機会があれば参加したい」、「学生さんが丁寧でわかりやすかった」という声が多数あり、このプロジェクトが、子供たちや地域の人が焼き物を通して、ものづくりへの関心を持ってくれるきっかけとなった。また、プラッツ習志野の方からも、今後も継続的な連携を取り地域を盛り上げたいとの声をいただき、地域と大学を結ぶ成果にもなった。

学生達自身もこのプロジェクトを通して、よりものづくりへの関心をもつとともに、地域交流の重要性を感じることができ、今後も、大学生と地域住民や地域施設をつなぐ活動の基盤として成果を上げることができた。（775）

活動写真





